

氏名	長野 菜穂子
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第548号
学位授与年月日	令和2年12月22日
審査委員	主査 教授 並河 徹
	副査 教授 森田 栄伸
	副査 准教授 岡本 貴行

論文審査の結果の要旨

好酸球性食道炎（以下EoE）は、食道上皮内に好酸球浸潤をきたす慢性炎症性疾患である。EoEは他のアレルギー疾患と強い関連性があることが示されており、近年のアレルギー疾患増加に伴い世界的に罹患率が上昇している。EoEの治療にはProton pump inhibitor (PPI) を用いるが、PPIの奏効しない症例（PPI-NR）と奏効する症例（PPI-R）があることが知られている。この2つを早期に鑑別できれば、適切な治療を選択することで患者QOLの向上が期待できる。EoEには上皮のバリア機能の低下が関わっていると言われていたことから、申請者は、PPI-NRとPPI-R間で扁平上皮のバリア機能に関わる4つの蛋白質、filaggrin、involucrin、loricrin、desmoglein1の発現が異なるのではないかとの仮説を立て、免疫染色を用いて検討した。PPI-NR、PPI-Rと逆流性食道炎（RE）患者計108例の食道生検材料に上記4種の蛋白質の免疫染色を行って半定量的に結果、4分子ともREに比べEoEでは有意に低下したが、PPI-NRとPPI-Rの間で有意に異なっていたのはfilaggrinのみであった。以上の結果から、食道上皮におけるfilaggrin発現低下が、PPI-NRとPPI-Rを鑑別する特異的なバイオマーカーになり得ることが示唆された。

この結果は、生検材料の免疫染色というルーチン検査を用いることで、PPI-NRの早期診断につながる可能性を示しており、臨床的に価値の高い研究である。